

非売品

# サクソフォンの吹き方

ジャズ編

-中級-

実践コース No.001

和音とペントトニック

こじまやサクソ教室 講師

小嶋 哲也

# とにかく吹く！聴く！書く！ 確実に！丁寧に！！早く！！！！

## 実践編を習得するに当って

さあ、ここまで来たらもう、サクソに限定されたカテゴリーは既に修了してしまして、ここからは、楽典、音楽理論、とりわけジャズ理論を中心とした実践的課題に入ります。簡単に言えば、ミュージシャンとしての道へエスコートしよう、というわけです。別にプロになれ、とっているわけではございませんが、これだけ全部できればプロになれる！ぐらいの内容は本書にすべてさらけ出しました。

したがって、プロになりたい人は血眼になってやればいいし、そうでない人は、出来そうなのを適当に選んでぼちぼち練習していけばいいし。

ここから先を学ぶのに必需品なのが、キーボードです。どういう形でも構いませんが、サステインペダルのついたものを選びます。要は、和音をジャーンと弾き、その音を聴きながら各種フレーズを練習する、という行為が必須になるからであります。トランスポーズ機能がついたのが便利かもしれません。

もちろん練習用の伴奏音源も用意しますが、それに合わせるに至るまでの時間が今までよりもよんとかかりますし、何より1つ1つのフレーズを、より確実に！丁寧に！！早く！！吹けるようになって欲しいからに他なりません。

この先大切なのは、まずは耳力。本編にも記してありますが、技術向上のためには、聴いてまねるのが一番！

今までは、プロの演奏とか聴いても「どうせできっこないし〜」という間違った気持ちで聴いていませんでしたか？

ところが、ここまでくると「お、これなら出来そうかも」や「あ、この人コンディミ(本編に出てきます)ばっかやってる〜」など、いろいろが面白いぐらいわかってきます。

2小節ぐらいのフレーズなら、どんなに難しくても、たいてい100回聴いて100回なぞれば出来るようになります。しかも、100回も聴いているうちに「なぜこの人はこのタイミングでこのフレーズを？」などという、背景や前後関係まで、なんとなく見えてきます。

音楽を楽しくしてくれるのは、音楽です。技術にばかり目を向けていても楽しくないし、結果的に上達もしません。聴く事も含めて、やった分だけ力になります！逆に言えばやった分しか力になりません！！頑張りましょう！！！！

# 目次

第1章 和音の練習	
第1節.三和音(トライアド)	
§1.Major & minor Triad (メジャー&マイナー・トライアド).....	1
§2.その他のTriad .....	2
第2節.四和音(4 notes chord)	
§1.7th chord (セブンス・コード) .....	3
§2.クリシェ・ラインで色んなコードを覚えよう.....	3
第3節.五和音(5 notes chord)	
§1.スケールとコード.....	5
§2.テンション .....	5
★まずは9thが変化します(その1、半音下がる) .....	6
★まずは9thが変化します(その2、半音上がる)	
★次に、11thが#11thに変化します	
★最後は、13thがb13thに変化します .....	7
§3.その他の五和音.....	7
コラム .....	8
ルート&コードの読み(表記)一覧表 .....	9
第4節.実践編	
§1.各スケールを縦に読む練習 .....	10
表1.メジャースケール(イオニアン ionian )	
表2.ドミナントスケール(ミクソリディアン mixolydian )	
表3.ドリアンスケール( dorian )	
表4.ロクリアンスケール( Locrian ).....	11
表5.ドミナントスケール(ミクソリディアン mixolydian ) テンション入り	
表6.ディミニッシュ( diminish )	
表7.オーギュメント( augument )	
§2.音程の度数.....	12
練習問題 .....	13
§3.テトラコード (Tetrachord).....	13
★メジャー型	
★マイナー型	
テトラコード 練習問題① .....	14
★12keyでの練習 .....	15.16
★5度からのアプローチ.....	17
★メジャーセブン系アプローチ	
★セブン系 アプローチ	
練習問題 .....	17
テトラコード 練習問題② .....	18
§4.和音の特訓	
★三和音 .....	19.20
★四和音 .....	21.22
第2章 ペンタトニックの奥義	
§1.4度進行とペンタトニック.....	23.24
§2.テトラコードとII-V-Iの4度進行 .....	25.26.27
コラム .....	28
おまけ メロディーがシングル・ペンタトニックの名曲 .....	28

# 第1章 和音の練習

## 第1節.三和音(トライアド)

### § 1. Major & minor Triad (メジャー & マイナー・トライアド)

まずは三和音の練習からやりましょう。コードには、下記に挙げる三和音のほかに、後ろに7、7、6などが付いた四和音、9、b9、#9、#11、b13、13などが付いた五和音などがありますが、とりあえず3和音が表現できれば、伴奏としての大事なポイントは捉えた、といっても過言ではありません。とはいえ、我々はメロディー楽器ですから、後ろに付く数字のほうが大事だったりするわけですが、あくまで、三和音の上に存在する音、ということをして体で理解した上で進んでいかなければなりません。まずは、アルファベットを見た瞬間に指が勝手にピュピュッと反応してしまうまで、やりましょう!! そうすればあとは、後ろの数字を加えていくだけです。実際にはそう簡単ではありませんが、石の上にも三和音。

The image displays two systems of musical notation for triads. The top system shows six chords: C, Db, D, Eb, E, and F. The bottom system shows six chords: F#, G, Ab, A, Bb, and B. For each chord, the notes are written on a staff, and the chord name is written below with a dash (e.g., C-, Db-, D-, Eb-, E-, F- for the top system). The notes are arranged in a way that shows the interval structure of each triad.

上段の、アルファベットだけのやつが、Major Triad、ダイアトニックでいう、(ドミソ) (ファラド) (ソシレ)。下段の「-(mとも書く)」が付いたのが、minor Triad、ダイアトニックでいう、(レファラ) (ミソシ) (ラドミ)。上下を見比べると、真ん中の音が半音低いだけ、というのがわかりますね。でも、たったこれだけの違いが、この世に無数の名曲を生み出した原動力でもあるのです。真ん中は特にクッキリ吹き分けることが重要なのです。

### 練習方法

残念ながらサクスの場合、同時に2つ以上の音を操ることができません。ですので、交互に出していく方法(アルペジオ奏法)をとります。Cの和音を元に、練習例を挙げていきましょう。

The image shows arpeggiated patterns for the same six chords as in the previous section. The top system shows C, Db, D, Eb, E, and F. The bottom system shows F#, G, Ab, A, Bb, and B. Each pattern is written on a staff with a treble clef and a common time signature. The notes are written in a sequence that represents the arpeggiated pattern. The chord name is written below with a dash (e.g., C-, Db-, D-, Eb-, E-, F- for the top system). The patterns are labeled with their respective chord names and a dash.

各練習を、最初はゆっくり、そして徐々に速めて行き、「丁寧に早く」吹けるまで繰り返していきます。最初は、上段ばかり練習します。C Db D...もしくは4度進行でC F Bb...な感じで。次に、下段ばかり練習します。C- C#- D-...もしくは4度進行でC- F- Bb-...な感じで。どちらも慣れたら今度は、それぞれを上・下・上・下と、連続して練習します。音符を書き出すのはアリですが、やはり最終的にはコードネームだけで音が出せるよう努めます。いうまでもなく、オクターブ上下できるものは、それも練習します。

これらの、和音の表現方法を「分散和音(アルペジオ)」といいます。スィング時代のソリストの演奏を聴くと、実はほとんどのソロがこの「アルペジオ」によるものでした。たった70年ぐらい前までは、現在のようなジャズのアドリブ奏法は全く確立されていなかったんですねえ。まあ、そりゃあ、コードネームが発明されたのも20世紀になってからですから当然ですね。いずれにしろ、その後40~50年代に活躍された大先生達に、改めて感謝。

## §2. その他のTriad

三和音にはあと、下記のものがあります。他にもありますが、別の表記とカブるので、ここでは割愛します。

### Diminish Triad (ディミニッシュ・トライアド)

C-(b5) D#-(b5) F#-(b5) A-(b5) C#-(b5) E-(b5) G-(b5) Bb-(b5) D-(b5) F-(b5) G#-(b5) B-(b5)

### Augment Triad (オーギュメント・トライアド)

CAUG EAUG AbAUG DbAUG FAUG AAUG DAUG GbAUG BbAUG EbAUG GAUG BAUG

各小節で区切られた4つ(3つ)のコードは、同じ音を持つ仲間です。ヒトカラゲにして練習しちゃいましょう!!

### Diminish 練習例

### Augument 練習例

### おさらい Cの和音を元に、少しだけ解説します

C C<sup>+</sup> C<sup>-</sup> C-(b5) C<sup>o</sup> CAUG C<sup>+</sup>

長3度=M3=メジャー・サード=2全音=2W=2ホール・ノート=4半音=4H=4ハーフ・ノート

短3度=m3=マイナー・サード=1全音1半音=1W1H=1ホール・ノート&1ハーフ・ノート=3半音=3H=3ハーフ・ノート

完全5度=P5=パーフェクト・フィフス=M3+m3=3W1H=7H 減5度=dim5=ディミニッシュト・フィフス=m3+m3=3W

=tri tone=三全音 増5度=aug5=オーギュメントド・フィフス=M3+M3=4W

度数について詳しく知りたい方は、楽典の「音程」というところにイヤというほど詳しく載っております。ジャズの理論書ですと、M3.m3.W.H.等についても詳しく載っております。勉強してみてください。え？持っていない？買ってください！

覚えるべき三和音は4種類です。中でも、Augumentはあまり耳馴染みのある方が少ないんじゃないでしょうか？しかしながら、特に'50年代以降の音楽を表現する上で、かなり重要な音遣いですので、面倒がらずに、しっかり練習してください！！dimやaugは、早く吹ければ吹けるほど、大先生方の魔法のカラクリが見えてきますよ～～！

# 第2節.四和音 (4 notes chord)

## § 1.7th chord (セブンス・コード)

まずはダイアトニックの和音から覚えていきましょう。下記は、CMajor Scaleのダイアトニックコードで、上段がトライアド、下段が四和音です。

注 M7= 7=Maj7 = Ma7=メジャー・セブンス=長7度=コード構成音の =5W1H=11H=Octave-1H=オクターブ上の半音下  
 注 m7=7=セブンス=短7度=コード構成音の ♭ =5W=10H=Octave-1W(2H)=オクターブ上の全音(2半音)下

コードの勉強をする上で、最も説明がややこしいのが、この「セブン野郎」です。よく皆さんが勘違いしている例を挙げながら解説していきましょう。

上段トライアドのCやFの事を巷でよく「Cメジャー」「Fメジャー」などといいます。なので、C 7を「シーメジャー・セブン」と思っている人が圧倒的に多いようです。正解は「シー・メジャーセブン」で、つまり、上段のCの和音にM7( 7)の「シ」の音が乗っかって、C & 7で、C 7なのであります。

次に、G7。上の、注 をご覧ください。m7=7、と書いてありますね。本来、前述の「C 7」の理屈でいえば、G7は、Gm7、もしくはG-7で、「ジー・マイナーセブン」とか呼ばれるのが筋なんでしょうが、するってえと、上のD-7、E-7やA-7とキャラがかぶってしまって、どうにもこりゃいけねえ、てんで、ここから先は私の推測なんですけど、コードを考えたジェリー・ロール・モートンという人はある日、そうか、音程のマイナーセブン(短7度・m7)をただの「セブン・7」っていうようにすりゃあ、全てが丸く収まるってもんだ！ということに気が付き、Gの和音にm7が乗っかって、G&m7=G7(ジー・セブン)となったのであります。

同様に、Dm7(D-7)は、Dmの和音にm7が乗っかって、Dm&m7=Dm7(ディーマイナー・セブン)となりました。これをあの日思いついていなかったら、ひょっとしたら未だに、G7がGm7(G-7)で、Dm7(D-7)はDmm7(D--7)だったかもしれません。くどいようですが、あくまで推測です。

B-7(b5)についても、もうわかりますよね。B-(b5)にm7(7)が乗っかっているのですが、順番が変わります。これも推測ですが、単に見た目にこだわっただけだと思います。あと、読み方ですが、日本では「ビーマイナーセブンフラットファイブ」で100%通じますが、正式名称は「ビーマイナーセブンスフラットフィフス」なので、外人とセッションするとき思い出してください。

他にも色々4ノーツ・コードがありますが、実践を交えながら説明していきましょう。

## § 2.クリシェ・ラインで色々なコードを覚えよう

クリシェ・ラインとは、業界的には、同じルート音で中身を微妙に変えていくラインの総称で、曲の中にもよく登場します。編曲者の中には、「決まり文句だ」「マンネリだ」と、嫌う人もいますが、実際によく出てくるんだから、覚えておいたほうが得、というものです。

新しいコード

上記のとおり、C6とA-7、C-6とA-7(b5)はそれぞれ、構成音が同じです。A-7/C、A-7(b5)/Cと書かれることもあります。C- 7は、こういった経過和音のほか、ムーディーな曲やエンディングなどに用いられます。

新しいコード

上記のとおり、C-augは、Fと同じ音を持つ経過和音です。  
sus4は、サスペンデッド・フォースといい、曖昧な響きが欲しい場面などによく用いられます。

その他の四和音

先述の-(b5)に、#7が乗ったもの。こちらの方が一般的。

先述のaugに、7thが乗ったもの。こちらの方が一般的。

sus4より、さらに曖昧な響きジャズではこちらが主流

9thといえば通常、後述の、7thを含んだ五和音になりますが、add9は、三和音に9thを乗せただけのシンプルな響きで、Popsによく登場します。

コード度数の見かた 4例

左図の、コード構成音、その下の度数、右側のメジャースケールを、それぞれ比較してみると、それぞれのコードの度数が、全て、メジャースケール、つまり、それぞれのルートのドレミファソラシの音と比較して成り立っている事がお分かり頂けますか??

もし、これでピンと来なかったら、あなたはまだまだスケール練習が足りないんじゃないんでしょうか?

スケールを練習すればするほどコードへの理解と反応も深まり、早まります。特に、次章からの五和音については、より深いスケールへの理解と洞察力を求められます。スケール練習はスポーツでいうランニングみたいなもので、やっていく上では常に続けていかねばならないものの一つです。

2000年以上も昔にこの、メジャースケールの形が数学者達によって「発明」されて以来ずっと、世界中の大半の人々がこの虜になり、DNAのように受け継がれてきて、少なくとも我々が生きている間は、この呪縛(?)から解き放たれる事は無いでしょう。

こうも断言できるのには理由があって、世の中に出回っている、音程の出る楽器は、一部の民族楽器を除いて全て、スケールを軸に考えられているからであります。これを変えるにはおそらく、全く新しい発想のピアノ、たとえば24平均律のピアノとか、が出てきて、それを巧みに操る演奏者(今ときは「演奏マシン」も有りか)が現れ、人々がそのすばらしさに魅了され、新しい理論が確立され、その理論に基づいたほかの楽器を市場が熱望し、初めて作られるんだと思います。でも、響きが美しいのであればとくに試作品ぐらいあっても不思議じゃないし、結局のところ、ピタゴラスが発見した「オクターブ=1:2」「完全5度=2:3」「完全4度=3:4」を、あと数百年は超えられないのでは?という私の勝手な推測でした。





最後は、13thがb13thに変化します(#13thはb7thと同じ音なので存在しません)

G7(b13)      G7(#5)

Ex.5 G7(b13)

R b9 #9 3 #11 5 b13 b7    R b7 b13 5 #11 3 #9 b9

これは、オルタード・ピバップスケールというスケールです(オルタード・スケールは、上記から5thの音を抜いたものです)。いわば、テンションの塊りのようなスケールがここに登場！といったところでしょうか。

G7 ALT    G オルタードスケール      Ab-D7    Ab メロディック・マイナー      Db7    Db リディアン7th スケール (俗に言う「裏」)

上記の3つを見比べてみると、どれも構成音が同じです。順番に音を出していくと、これまたビックリ！それぞれ全く雰囲気の違う音列です。同じ型の洋服でも、色が違うと雰囲気が全然違うのと同じで、順番が変わるだけで雰囲気が変わってきます。独断ですが、この雰囲気の違いを逆手にとって、歴代ジャズマンは様々な名物フレーズ、もしくは、オンリー・ワン・フレーズへと導いてきたのであります。

## まとめ

ドミナント7thのテンションは、数字の若い順にどんどん増えていく、というふうに解説してきました。つまり、五音目がb9で、六音目が#9、七音目が#11で、八音目がb13、八和音になっちゃうじゃ～ん！いやいや、ちゃうちゃう。8個同時に鳴らしてみればわかると思いますが、もはや雑音ですわ。そうじゃなくて、和音的には、各解説の白玉の重なりで、基本的には表現する、ということでもあります。テンションを2つ3つ重ねて六～七和音として和音をかもし出すやり方もありますが、これはブロックコードの構築の話になり、我々単音軍団にはあまり縁のない方面の話なので割愛します。

まあ、大雑把に言えば、譜面に書かれている数字がデカイほど、何をやってもいい、という話です。とはいえ、テンション名が何も書かれていない譜面も結構ありまして、そういう場合は、1廻り目にb9、2廻り目に#9、というように徐々にテンションを増やして練習していき、これはおかしいなあ、と思ったところでやめとく、みたいにやっていったらいいと思います。一概には言えませんが、明るい曲調を保ちたいときはテンションを少なめに、緊張感を漂わせたいときは多めに。ただし、水彩絵の具みたいなもので、色をたくさん混ぜるほど、汚くなるリスクは高い、ということをあらかじめ覚えておいてください！数字が上がるほどリスクが高くなる。でもやめられない。病気みたいなものです。

## §3. その他の五和音

今から紹介する和音以外にも、実に様々な五和音が存在しますが、きりがないので、あまり見かけないものについては割愛します。まあ、これまでの内容が理解できれば、あとはそこに付け足していただくだけです。

マイナー系五和音

C-9      C-11      C-13

この3つは、普通にC-7のとき、ピアノとかが弾いていて、わりと安定感のある響きです。テンションではなく、普通にフレーズを構築していく際の知識として、実践で活躍できますように！

C-D9      C-b9

この2つは、エンディング等によく用いられ、終止感が漂います。終わりにC-と書かれていたら、こういう音を入れてみましょう！

## その他の五和音



この3つは主に、エンディング等で用いられます。  
Cとのみ書かれていた場合でも、これらを用いれば、上等なエンディングになる事間違いなし！！



この和音は、マイナーな曲の中に時々登場するやつで、本来メジャー・セブンなんだけど、どうしてもそこに、より深いマイナー感を漂わせたいときなどに出てきます。あと、ハーモニックマイナーを順番に和音化していくと、3番目に出てくるやつです。



これは俗に、スーパーロクリアン、ロクリアン#9(2)などと呼ばれている理論を、具体的にコードで示している、という感じです。印象としては、ドマイナー感がちょっと薄れる感じです。響きとしては、下3つがデミニッシュ、上3つがオーギュメントで、喧嘩しているみたいな響きが、私は好きです。ハモる時などはよく、こっちを使いますよ。



何だかんだ紹介してまいりましたが、現実的には

## リアルタイムに スムーズに 心地いいフレーズにできてナンボ

ということでありませう。これができるようになるには、より実践的な練習しかありません！！

ここから先は、コードを見て、如何に脳が、指が素早く反応できるか?を重点に置いた「実践的和音練習」を紹介していきます。

各フレーズ、ちょこっとずつフレーズが書いてありますので、それを参照しながら全てのキーに移調し、書いていきます。このとき、パソコンソフト等を用いるような事は、決してやってはいけません。

あくまでも、理屈で考え、理屈でわからなければ実際に音に出して探って、音符にしていく。

これこそがこの「和音の練習」の真意であるからです。

考えさせるのではなく、実際に考えて音を出す。

時間はかかると思います。中には、1行書くのに丸1日かかってしまう人もいます。それでも、やり続けていくうち徐々に慣れてきて、最終的には然程時間をとらずにできる様になる筈です。

音楽の勉強は、独断ですが、その7割は「耳の勉強」つまり「耳トレ」です。残る3割のうち2割が、楽器の奏法などの技術的トレーニング、で、残る1割が楽典、歴史等の知識などです。

具体的な内訳の例としては、1日3時間音楽にかかわる時間があるとして、半分の1時間半は真剣に他人の音に耳を傾ける時間、CDを聴いたり、映像を観たり。で、残りの1時間半は実際に楽器を持って、その内の30分間は、楽譜を書いたりコード分析したり。もちろん前述のとおり、わからなければ実際に吹いてみて。

残る1時間のうち30分は、それをすらすらやる練習に、残りの30分でやっと、ロングトーンなどの音作りや曲の練習やアドリブの練習をします。つまり例えば、譜面をさらったりアドリブの実践練習を2時間やりたければ、1日12時間音楽に携わらなければならない(!!)ということです。

あくまで私がこれまで様々な演奏家、講師、生徒さん、もちろん私自身も、などとかかわってきた中で導いた割合ですが、要約すれば「自分のプレイに焦れば焦るほど 人の演奏をたくさん聴け」ということです。

学ぶ事はまねる事、といわれます。音楽の場合多くはそれを総じて「耳コピ」などと一緒くたにする傾向がありますが、楽器という耳コピは、みんなもの凄く敷居が高い感じで捕らえていがちです。が、実際そうではなく、最初は似てなくて当然なんだ、と割り切り、何もわからぬまま雰囲気から真似ていく、というのも重要です。その人の表情やしぐさ、金がある人はマウスピース、リードなど道具をまねてみるのも良いでしょう。

やっていくうちに音色や雰囲気だけはそっくりになって、そうやって初めて、もっとそっくりになりたい!!と欲が出て、初めて音符に書き出し、吹いてみる。なんていう感じで最初は十分だと、私は思うのですが。

どの演奏家も、そのほとんどは、コードの理論から極端に離れた事をやっているわけではなく、決められたコード進行の中であーでもないこーでもない、と知恵を絞っています。すなわち和音とは、それらをわかり易くしてくれる「漢字」のようなものだと思います。繰り返し読み書きすれば文章もまとまり、難しい本も読めるようになります。難しい漢字も練習して読み書きできれば、ちょっと文に混ぜたくなるのと同様に、和音の練習もよろしくお願ひします!!すればするほど、耳コピなんて楽になりますよ~!!!

# ルート&コードの読み(表記)一覧表

同じコードでも、人によって、また、国によって様々です。この際だから覚えちゃいましょう!!

Root

英(米)表記 (同 こじまや表記)	英読み	こじまや読み	独表記	独読み	伊(仏)表記	伊(仏)読み	日表記	日読み
C	シー	ツェー	C	ツェー	Do	ド	ハ	ハ
C b	シーフラット	ツェーフラット	C b Ces	ツェス	Do b	ドフラット	変ハ	ヘンハ
C #	シーシャープ	ツェーシャープ	C # Cis	ツイス	Do #	ドシャープ	嬰ハ	エイハ
D	ディー	デー	D	デー	Re	レ	ニ	ニ
D b	ディーフラット	デーフラット	D b Des	デス	Re b	レフラット	変ニ	ヘンニ
D #	ディーシャープ	デーシャープ	D # Dis	デイス	Re #	レシャープ	嬰ニ	エイニ
E	イー	イー	E	エー	Mi	ミ	ホ	ホ
E b	イーフラット	イーフラット	E b Es	エス	Mi b	ミフラット	変ホ	ヘンホ
E #	イーシャープ	イーシャープ	E # Eis	エイス	Mi #	ミシャープ	嬰ホ	エイホ
F	エフ	エフ	F	エフ	Fa	ファ	ヘ	ヘ
F b	エフフラット	エフフラット	F b Fes	フェス	Fa b	ファフラット	変ヘ	ヘンヘ
F #	エフシャープ	エフシャープ	F # Fis	フィス	Fa #	ファシャープ	嬰ヘ	エイヘ
G	ジー	ゲー	G	ゲー	Sol	ソ	ト	ト
G b	ジーフラット	ゲーフラット	G b Ges	ゲス	Sol b	ソフラット	変ト	ヘント
G #	ジーシャープ	ゲーシャープ	G # Gis	ギス	Sol #	ソシャープ	嬰ト	エイト
A	エー	アー	A	アー	La	ラ	イ	イ
A b	エーフラット	アーフラット	A b As	アス	La b	ラフラット	変イ	ヘンイ
A #	エーシャープ	アーシャープ	A # Ais	アイス	La #	ラシャープ	嬰イ	エイイ
B	ビー	ビー	H	ハー	Si	シ	ロ	ロ
B b	ビーフラット	ビーフラット	B	ベー	Si b	シフラット	変ロ	ヘンロ
B #	ビーシャープ	ビーシャープ	H # His	ヒス	Si #	シシャープ	嬰ロ	エイロ

## Chordサフィックス(各国共通)

こじまや読み	その他の読み	こじまや表記	表記2	表記3	表記4	表記5	表記6	表記7
メジャー	メジャートライアド	ナシ(Rootのみ)	△	M	Maj	MA	△(triad)	M(triad)
マイナー	マイナートライアド	-	m	Mi	MI	MIN	-(triad)	m(triad)
セブン	セブンス	7						
メジャーセブン	メジャーセブンス	△7	M7	Maj7(以下略)	MA7(以下略)			
マイナーセブン	マイナーセブンス	-7	m7	Mi7(以下略)	MI7(以下略)	MIN7(以下略)		
マイナーフラットファイブ	マイナーフラットテッドフィフス	-(b5)	m(b5)	m-5	他			
ハーフディミニッシュ	マイナーセブンスフラットテッドフィフス	φ	m7(b5)	-7-5	m7 b5	-7 b5	他	
ディミニッシュセブン	ディミニッシュトセブンス	o	dim7	DIM7	o7	dim	DIM	
マイナーメジャーセブン	マイナーメジャーセブンス	-△7	mM7	-(△7)	m(△7)	m(M7)	-(M7)	他
サスフォー	サスペンディッドフォース	SUS4	sus4	(4)				
セブンサスフォー	セブンスサスペンディッドフォース	7SUS4	7sus4	7(4)				
シックス	シックスス	6						
ナイン	ナインス	9	7(9)					
イレブン	イレブンス	11	7(11)					
サーティーン	サーティーンス	13	7(13)					
マイナーシックス	マイナーシックスス	-6	m6	他				
マイナーナイン	マイナーナインス	-9	m9	m7(9)	-7(9)	※ 11/13も同様		
オーギュメント		AUG	+	aug	(#5)			
オーギュメントセブン	オーギュメントセブンス	+7	aug7	AUG7	7(#5)	7+5	7#5	
シックスナイン	シックスティーナインス	69						
マイナーシックスナイン	マイナーシックスティーナインス	-69	m69	他				
マイナーオーギュメント		-AUG	-aug	maug	mAUG	他		
アドナイン	アドナインス	ADD9	add9	add2				
マイナーアドナイン	マイナーアドナインス	-ADD9	-add9	-add2				
セブンフラットナイン	セブンスフラットテッドナインス	7(b9)	7 b9	7-9	※ b5/b13も同様			
セブンシャープナイン	セブンスシャープトナインス	7(#9)	7#9	7+9	※ #11も同様			
オルタードセブン	オルタードセブンス	7ALT	7alt	ALT7	alt7			

他にも色々ありますが、上記を参照すれば、世界中のあらゆるコードネームが判別できる筈です!!

## 第4節.実践編

### § 1.各スケールを縦に読む練習

P.5の実践編です。図の中に音を埋めていきましょう。

表1.メジャースケール(イオニアン ionian )※P11を(#11)に変換すると Lydianになります。

M13th (≒M6th)	A											
P11th (≒P4th)	F											
M9th (≒M2nd)	D											
M7th	B											
P5th	G											
M3rd	E											
Root	C	F	B♭	E♭	A♭	D♭	F♯	B	E	A	D	G
表記	C△7	F△7	B♭△7	E♭△7	A♭△7	D♭△7	F♯△7	B△7	E△7	A△7	D△7	G△7

表2.ドミナントスケール(ミクソリディアン mixolydian )

M13th (≒M6th)	A											
P11th (≒P4th)	F											
M9th (≒M2nd)	D											
m7th	B♭											
P5th	G											
M3rd	E											
Root	C	F	B♭	E♭	A♭	D♭	F♯	B	E	A	D	G
表記	C7	F7	B♭7	E♭7	A♭7	D♭7	F♯7	B7	E7	A7	D7	G7

表3.ドリアンスケール( dorian )

※ダイアトニックコードにはⅡm7.Ⅲm7.Ⅵm7と、3種類のm7がありますがⅢやⅥは多くの場合、他のコードに変換されてしまうので割愛します

M13th (≒M6th)	A											
P11th (≒P4th)	F											
M9th (≒M2nd)	D											
m7th	B♭											
P5th	G											
M3rd	E♭											
Root	C	F	B♭	E♭	G♯	C♯	F♯	B	E	A	D	G
表記	C-7	F-7	B♭-7	E♭-7	G♯-7	C♯-7	F♯-7	B-7	E-7	A-7	D-7	G-7

表4.ロクリアンスケール( Locrian )

※m9をM9にすると、スーパーロクリアンの完成!!

m13th (≒m6th)	A ♭											
P11th (≒P4th)	F											
m9th (≒m2nd)	D ♭											
m7th	B ♭											
-5th	G ♭											
m3rd	E ♭											
Root	C	F	A ♯	D ♯	G ♯	C ♯	F ♯	B	E	A	D	G
表記	C ♭	F ♭	A ♯ ♭	D ♯ ♭	G ♯ ♭	C ♯ ♭	F ♯ ♭	B ♭	E ♭	A ♭	D ♭	G ♭

表5.ドミナントスケール(ミクソリディアン mixolydian ) テンション入り

M13th (≒M6th)	A											
m13th= ♭ 13th (≒m6th)	A ♭											
+11th=♯11th (≒+4th)	F ♯											
P11th (≒P4th)	F											
+9th=♯9th (≒+2nd)	D ♯											
M9th (≒M2nd)	D											
m9th= ♭ 9th (≒m2nd)	D ♭											
m7th	B ♭											
P5th	G											
M3rd	E											
Root	C	F	B ♭	E ♭	A ♭	D ♭	F ♯	B	E	A	D	G
表記	C7	F7	B ♭7	E ♭7	A ♭7	D ♭7	F ♯7	B7	E7	A7	D7	G7

表6.ディミニッシュ( diminish )

-7th(≒M6th)	B ♭											
-5th	G ♭											
M3rd	E ♭											
Root	C	F	A ♯	D ♯	G ♯	C ♯	F ♯	B	E	A	D	G
表記	Co	Fo	A ♯o	D ♯o	G ♯o	C ♯o	F ♯o	Bo	Eo	Ao	Do	Go

表7.オーギュメント( augment )

+5th	G ♯											
M3rd	E											
Root	C	F	B ♭	E ♭	A ♭	D ♭	F ♯	B	E	A	D	G
表記	C+7	F+7	B ♭+7	E ♭+7	A ♭+7	D ♭+7	F ♯+7	B+7	E+7	A+7	D+7	G+7

## § 2. 音程の度数

度数を知れば、ますます音楽が楽しくなります。とっても難しそうに見えますが覚えてしまえば簡単です。全ての度数は、コードと同じく、メジャースケールに対しての比較で行われます。メジャースケールの音列は 完1長2長3完4完5長6長7 になりますね。まずはこれをしっかり覚えて、あとは、数えたい元の音をルートとして、度数を数え、下記の「値の増減」にはめて比較し、割り出す。という方法で行います。

値の増減(半音単位)	減 短 長 増	減 完 増
	- m M +	- P +

度数	サフィックス	実 際 の 音											
		C											
P8th(P1st)=5W2H 完全8度(完全1度)	Unison Octave	C											
M7th=5W1H 長7度	7	B											
m7th=4W2H 短7度	7	B $\flat$											
M6th(M13th)=4W1H 長6度(長13度)	6 13	A											
m6th(m13th)=3W2H 短6度(短13度) +5th=4W 増5度	13 5	A $\flat$ G $\sharp$											
P5th=3W1H 完全5度	ナシ	G											
+4th(+11th)=3W 増4度(増11度) -5th=2W2H 減5度	11 5	F $\sharp$ G $\flat$											
P4th(P11th)=2W1H 完全4度(完全11度)	11 sus4	F											
M3rd=2W 長3度	ナシ	E											
m3rd(+9th)=1W1H 短3度(増9度)	m(-) 9	E $\flat$ D $\sharp$											
M2nd=1W 長2度(長9度)	2 9	D											
m2nd(m9th)=1H 短2度(短9度)	2 9	D $\flat$											
Root	ナシ	C	F	B $\flat$	E $\flat$	A $\flat$	D $\flat$	F $\sharp$	B	E	A	D	G

P = Perfect = 完全 / M = Major = 長 / m = minor = 短 / + = augument = 増 / - = diminish = 減

W = Whole Note = 全音 / H = Half Note = 半音

それぞれの音程の度数をもとめましょう。上の括弧に日本語、下には英語で。

Q.1 Q.2 Q.3 Q.4 Q.5 Q.6

{ }度 { }度 { }度 { }度 { }度 { }度

Q.7 Q.8 Q.9 Q.10 Q.11 Q.12

{ }度 { }度 { }度 { }度 { }度 { }度

### §3.テトラコード(Tetrachord)

テトラコードとは、コードからフレーズを作る際、とりあえず4つの音を選んでやっつけてしまおう!という、いわば作、編曲理論に近い考えで、ペントニックは5音音階、テトラコードは4音音階、です。本来の意味は、「完全4度の幅の中に音を適当に2つ挿入して作られるフレーズの形」というもので、例えばメジャースケール。2つに分けると(ド - - ファ) (ソ - - ド)と、2つの4度に分かれます。この、-の部分にそれぞれレ・ミ、ラ・シと入れればメジャースケールの完成です。また、レ♭・ミ♭、ラ♭・シ♭と入れると、フリジアンに、というように、ド・ファ・ソ・ド、の完全系4本柱を基礎にして多様な建築を進めていく、といった感じのものです。曲を作る際、この理論はとても役に立ちますので、ぜひチャレンジしてみてください!!!

ところが、この理論をそのまま我々の「ドミナント(4度)進行」に当てはめると、ドレミファ～ファソラシ～シドレミ～みたいに、フレーズの終わりどまりが同音になり、フレーズとしてはいいが、アドリブとしてはイマイチ面白味に欠ける、ということで、ちょっと柱を並べ替えて(ド - - ソ) (ファ - - ド)というようにします。ここに2つずつ、まずはレ・ミ、ソ・ラと入れると、CとFのペントニックの並びになりました!じゃ、今度はミ・ファ、ラ・シ♭と入れると、今度はCとFのマイナーペンタの並びに。

これは何だかいいぞ!ということで、ジャズ語でいう「テトラコード」とは、こういう風にペントニックとあわせて構築されたのであります。では実際、どう使うのかやってみましょう!

メジャー型

マイナー型

C CΔ7 C7 C6 etc.

R 9(2) 3 5

C- C-7 C-Δ7 C-6 etc.

R b3 11(4) 5

メジャー系コードにはメジャーペンタ、マイナー系にはマイナーペンタをはめていく事にします。下記のようなコードには、上記を基にして、次のようにはめていきます

C+ C+7 etc.

R 9(2) 3 #5

C∅ C∅9 C∅ etc.

R b3 11(4) b5

C7(b9) etc.

R b9(b2) 3 5

C7(#11) CΔ7(#11) etc.

R 9(2) 3 #11(#4)

これは、とある有名なスタンダードジャズ(バレバレ)のコード進行です。見事なドミナント進行ですね。前半ちょっと書いたテトラコードをヒントに、全部埋めていってください。埋め終わったら、空いた各小節の右側にも自分で作曲しながら音符と休符を埋めてください!! 次の、最初の音へ上手くメロディーがつながるように、何度も吹いたり唄ったりして、つないでいきましょう!ちゃんと息が吸える場所を作ってあげる事も重要です。

**B♭**

**D.S.**

# 12keyでの練習

ここでは、マイナーペンタトニックと、メジャーペンタトニックでJazz編中級～基本力Upコース～に掲載していないものについて、実践練習をしていきます。

～ については、次頁のリズム練習のほか、前頁のように後半をアドリブで埋める練習もします。

First system: Melody line with notes and accidentals, and two empty bass lines for chords.

Melody notes: A- (quarter), D- (quarter), G- (quarter), C- (quarter)

Chord 1: F- (below staff)

Chord 2: Bb- (below staff)

Chord 3: D#- (below staff)

Chord 4: G#- (below staff)

Chord 5: C#- (below staff)

Chord 6: F#- (below staff)

Chord 7: B- (below staff)

Chord 8: E- (below staff)

Second system: Melody line with notes and accidentals, and two empty bass lines for chords.

Melody notes: A- (quarter), D- (quarter), G- (quarter), C- (quarter)

Chord 1: F- (below staff)

Chord 2: Bb- (below staff)

Chord 3: D#- (below staff)

Chord 4: G#- (below staff)

Chord 5: C#- (below staff)

Chord 6: F#- (below staff)

Chord 7: B- (below staff)

Chord 8: E- (below staff)

Third system: Melody line with notes and accidentals, and two empty bass lines for chords.

Melody notes: A- (quarter), D- (quarter), G- (quarter), C- (quarter)

Chord 1: F- (below staff)

Chord 2: Bb- (below staff)

Chord 3: D#- (below staff)

Chord 4: G#- (below staff)

Chord 5: C#- (below staff)

Chord 6: F#- (below staff)

Chord 7: B- (below staff)

Chord 8: E- (below staff)

Fourth system: Melody line with notes and accidentals, and two empty bass lines for chords.

Melody notes: C (quarter), F (quarter), Bb (quarter), Eb (quarter)

Chord 1: Ab (below staff)

Chord 2: Db (below staff)

Chord 3: F# (below staff)

Chord 4: B (below staff)

Chord 5: E (below staff)

Chord 6: A (below staff)

Chord 7: D (below staff)

Chord 8: G (below staff)

と は以下のように順番を換えて練習します。

First system:

Melody: A- D- G- C-

Chords: F- Bb- D#- G#-

Second system:

Melody: C#- F#- B- E-

Chords: C F Bb Eb

Third system:

Melody: Ab Db F# B

Chords: E A D G

Fourth system:

Melody: A- D- G- C-

Chords: F- Bb- D#- G#-

Fifth system:

Melody: C#- F#- B- E-

Chords: C F Bb Eb

Sixth system:

Melody: Ab Db F# B

Chords: E A D G

~ については、下記のリズムパターンでも練習します。

Rhythm patterns:

Pattern 1: Quarter note, eighth note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note.

Pattern 2: Quarter note, eighth note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note.

Pattern 3: Quarter note, eighth note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note.

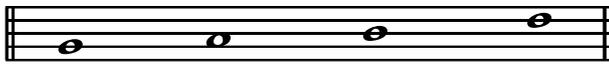
Pattern 4: Quarter note, eighth note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note, quarter note.

## 5度からのアプローチ

さあ、ここから急に難しくなりますよ～！でも、今までやってきたのを踏まえて地道にやればきっと慣れてくるはず！  
まずは下の2つをご覧ください。

### メジャーセブン系アプローチ

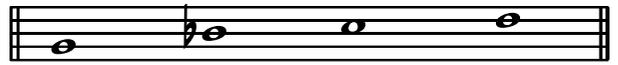
C C- CΔ7 C6 C-Δ7 etc.



5 6 M7 9

### セブン系アプローチ

C7 C-7 C C- etc.



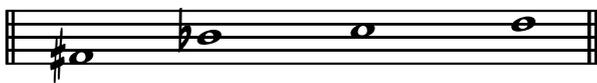
5 b7 R 9

どちらにもメジャーかマイナーかを決定する「3rd」が存在しません。どちらを決定するかは、「7」が鍵になります。従って、トライアド系和音は、どちらも選択できる、ということです。

それともう1つ、左はGメジャーペンタ、右はGマイナーペンタニックの一部です。5度上、ということですね。これをやり遂げると格段にコードを見る力が上がる事を、めげる前に言っておきます。がんばろう!!

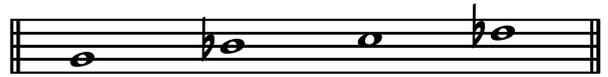
セブン系アプローチには他に下記のものがあります。まだ色々ありますが、今までの知識で応用していきましょう!

C7(#11) etc.



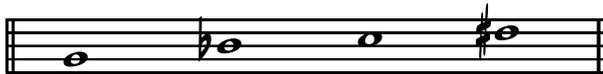
#11 b7 R 9

C7(b9) etc.



5 b7 R b9

C7(#9)



5 b7 R #9

Cø9



b5 b7 R 9

例に従って、以下にあげるコードのテトラコードを、ルートから始まるのと、5度から始まるのを書きましょう。

E7(#11)

AΔ7

Eb-7

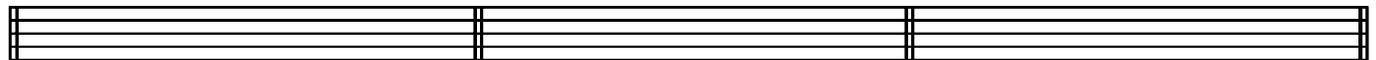


R 9 3 #11 #11 b7 R 9 R 9 3 5 5 6 7 9

C#ø

B

F#-



A7(b9)

G7(#9)

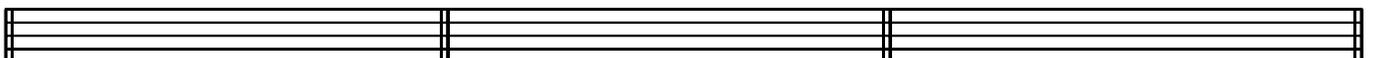
BΔ7(#11)



F#7

A+7

Bb7(b9)



別表6の曲を今度は、5度からのテトラコードで書いてみましょう。慣れたら前回と同様に書き譜してみてください。響きに違和感がある人は、各フレーズ右から左へ読むと、多少わかりやすくなります。

**B♭**  $\frac{8}{8}$   $D-7$   $G7$   $C\Delta7$   $F\Delta7$

$B\phi$   $E7(b9)$   $A-$   $A7(b9)$

$B\phi$   $E7(b9)$   $A-$   $A7(b9)$

$D-7$   $G7$   $C\Delta7$   $F\Delta7$

$B\phi$   $E7(b9)$   $A-$   $D7$   $G-7$   $C7$

$F\Delta7$   $B\phi$   $E7(b9)$   $A-$   $A7(b9)$

*D.S.*

**E♭**  $\frac{8}{8}$   $A-7$   $D7$   $G\Delta7$   $C\Delta7$

$F\#\phi$   $B7(b9)$   $E-$   $E7(b9)$

$F\#\phi$   $B7(b9)$   $E-$   $E7(b9)$

$A-7$   $D7$   $G\Delta7$   $C\Delta7$

$F\#\phi$   $B7(b9)$   $E-$   $A7$   $D-7$   $G7$

$C\Delta7$   $F\#\phi$   $B7(b9)$   $E-$   $E7(b9)$

*D.S.*

## § 4.和音の特訓

### 三和音

P.1で示した練習の実践フォームです。上手いかないやつだけ鉛筆で薄く書いて、最後には音符ナシでやれる様頑張りましょう!

C      1-3-5-3      C      5-3-1-3      C      3-5-1-5      C      5-1-3-1

Db      1-3-5-3      Db      5-3-1-3      Db      3-5-1-5      Db      5-1-3-1

D      1-3-5-3      D      5-3-1-3      D      3-5-1-5      D      5-1-3-1

Eb      1-3-5-3      Eb      5-3-1-3      Eb      3-5-1-5      Eb      5-1-3-1

E      1-3-5-3      E      5-3-1-3      E      3-5-1-5      E      5-1-3-1

F      1-3-5-3      F      5-3-1-3      F      3-5-1-5      F      5-1-3-1

F# 1-3-5-3 F# 5-3-1-3 F# 3-5-1-5 F# 5-1-3-1

G 1-3-5-3 G 5-3-1-3 G 3-5-1-5 G 5-1-3-1

A<sup>b</sup> 1-3-5-3 A<sup>b</sup> 5-3-1-3 A<sup>b</sup> 3-5-1-5 A<sup>b</sup> 5-1-3-1

A 1-3-5-3 A 5-3-1-3 A 3-5-1-5 A 5-1-3-1

B<sup>b</sup> 1-3-5-3 B<sup>b</sup> 5-3-1-3 B<sup>b</sup> 3-5-1-5 B<sup>b</sup> 5-1-3-1

B 1-3-5-3 B 5-3-1-3 B 3-5-1-5 B 5-1-3-1

## ワンポイント

ポイントは、なるべくキーから指が離れないように、あとは、オルタネートフィンガリング(インチキ指)を駆使して、最低限の動きで最高のスピードを目指します！

♪ = 320で、プロレベルです。がんばろう!!

四和音

ここでは、P.3~4で紹介したクリシェラインのうち、練習し甲斐のあるやつだけを表にします。  
 表になっていないものは出現率が低いので、曲の中で出てきた時にさらう、というふうでいいと思います。

The image displays a musical score for guitar, featuring a sequence of chords and triplets. The chords are: F, FΔ7, F7, F6 (D-7), F, Bb, BbΔ7, Bb7, Bb6 (G-7), Bb, Eb, EbΔ7, Eb7, Eb6 (C-7), Eb, Ab, AbΔ7, Ab7, Ab6 (F-7), Ab, Db, DbΔ7, Db7, Db6 (Bb-7), Db, F#, F#Δ7, F#7, F#6 (D#-7), F#, B, BΔ7, B7, B6 (G#-7), B, E, EΔ7, E7, E6 (C#-7), E, A, AΔ7, A7, A6 (F#-7), A, D, DΔ7, D7, D6 (B-7), D, G, GΔ7, G7, G6 (E-7), G.

C-                    C-Δ7                    C-7                    C6 (A-7(b5))                    C-  
 F-                    F-Δ7                    F-7                    F6 (D-7(b5))                    F-  
 B $\flat$ -                    B $\flat$ -Δ7                    B $\flat$ -7                    B $\flat$ 6 (G-7(b5))                    B $\flat$ -  
 D $\sharp$ -                    D $\sharp$ -Δ7                    D $\sharp$ -7                    D $\sharp$ 6 (C-7(b5))                    D $\sharp$ -  
 G $\sharp$ -                    G $\sharp$ -Δ7                    G $\sharp$ -7                    G $\sharp$ 6 (F-7(b5))                    G $\sharp$ -  
 C $\sharp$ -                    C $\sharp$ -Δ7                    C $\sharp$ -7                    C $\sharp$ 6 (A $\sharp$ -7(b5))                    C $\sharp$ -  
 F $\sharp$ -                    F $\sharp$ -Δ7                    F $\sharp$ -7                    F $\sharp$ 6 (D $\sharp$ -7(b5))                    F $\sharp$ -  
 B-                    B-Δ7                    B-7                    B6 (G $\sharp$ -7(b5))                    B-  
 E-                    E-Δ7                    E-7                    E6 (C $\sharp$ -7(b5))                    E-  
 A-                    A-Δ7                    A-7                    A6 (F $\sharp$ -7(b5))                    A-  
 D-                    D-Δ7                    D-7                    D6 (B-7(b5))                    D-  
 G-                    G-Δ7                    G-7                    G6 (E-7(b5))                    G-

慣れてきたら、音列の順番を色々変えてやってみると面白いでしょう。練習し始めのWarming Upに最適！

## 第2章 ペンタトニックの奥義

もはや、いわずと知れた我らの「ペンタ」。古くから世界各国で愛され、これでもか!というくらい様々な名曲や名フレーズを、いまだに世に送り出し続けてくれる「ペンタ」。  
よりジャズらしく、と、テンションに走るのもアリですが、どうしても、聴いている人は疲れてしまいます。そんな中に時折、安定感抜群で力強い「ペンタ」が登場することで、みんながホッとします。では、どう安定的で力強いのか?1つだけ例を挙げましょう。



これを街なかで、いい音でキレイに吹けたなら、たちまち2000円ぐらいの経済効果になる。といえるほど誰でも知っていてしかもちょっとワクワクする、渾身の名曲ですね。このCMを見ていても、ロゴマークとこの曲しか出てこない。しかも、CMのバージョン

が変わるたびにKeyも変わっている!まさにこの音列とリズムそのものがこの曲そのもの!と言わんばかりです。ところがこのペンタ!ひとたび使い道を変えると、かなりヤバいフレーズへも変貌します。順番に見ていきましょう!

### § 1.4度進行とペンタトニック

基本力Upコースでは、とにかくペンタの12音列そのものに慣れ親しんでいただきましたが、ん?まだ親しくない?ではもう一度やり直しですね。何しろこの先は、ペンタを縦横無尽に取り扱っていきますので、親しくない人はすぐに嫌いになります。人間関係と同じですね~。やだやだ。

下記の1小節目をご覧ください。Amペンタトニックそのままですね。次に2小節目、3小節目...と比較します。音が1個ずつ変化しているのがお判り頂けます。よね。ちょっと難しいですが、キッチリさらいましょう!

C(Am)P.T.      F(Dm)P.T.      Bb(Gm)P.T.      Eb(Cm)P.T.

Ab(Fm)P.T.      Db(Bbm)P.T.      F#(D#m)P.T.      B(G#m)P.T.

E(C#m)P.T.      A(F#m)P.T.      D(Bm)P.T.      G(Em)P.T.

上手く吹けるようになったら今度は、下記の伴奏に合わせてそれぞれやっていきましょう。同じ事をやっても雰囲気ガラッと変わります。同じペンタでもいろんなキーでやれることは、Major&minorの練習で実証済みですね。忘れてしまった人は、基本力UpコースのP.8へGo!!

Chord progression: C, F, Bb, Eb, Ab, Db, F#, B, E, A, D, G

Chord progression: A, D, G, C, F, Bb, D#, G#, C#, F#, B, E

Chord progression: F, Bb, Eb, Ab, Db, Gb, B, E, A, D, G, C

Chord progression: D, G, C, F, Bb, Eb, G#, C#, F#, B, E, A

Chord progression: A, D, G, C, F, Bb, Eb, Ab, Db, F#, B, E

Chord progression: G-7, C-7, F-7, Bb-7, Eb-7, Ab-7, Db-7, F#-7, C#-7, B-7, E-7, A-7, D-7, G-7

Chord progression: A-7, D-7, G-7, C-7, F-7, Bb-7, D#-7, G#-7, C#-7, F#-7, B-7, E-7

ここから先は、鬼の特訓です。前頁同様、1つずつ音が変わっていきます。難しいので、1つ1つ鍵盤で和音を鳴らしながら丁寧に練習します。慣れてきたらだんだん早く！そして2~3個ずつ繋げて行き、最後に、前頁の各伴奏に乗せてすらすら、という要領でやってみましょう。あと、それぞれのペンタの基本形を常に意識してじっくりやらないとすぐに訳がわからなくなります。耳トレというよりはもう、脳トレの気分で！ドソロのとき超便利!!  
 本当は、音符を空白にしておきたかったのですが、あまりにややこしいので今回は大サービス！

C(Am)P.T.      F(Dm)P.T.      Bb(Gm)P.T.      Eb(Cm)P.T.

Ab(Fm)P.T.      Db(Bbm)P.T.      F#(D#m)P.T.      B(G#m)P.T.

E(C#m)P.T.      A(F#m)P.T.      D(Bm)P.T.      G(Em)P.T.

C(Am)P.T.      F(Dm)P.T.      Bb(Gm)P.T.      Eb(Cm)P.T.

Ab(Fm)P.T.      Db(Bbm)P.T.      F#(D#m)P.T.      B(G#m)P.T.

E(C#m)P.T.      A(F#m)P.T.      D(Bm)P.T.      G(Em)P.T.

C(Am)P.T.      F(Dm)P.T.      Bb(Gm)P.T.      Eb(Cm)P.T.

Ab(Fm)P.T.      Db(Bbm)P.T.      F#(D#m)P.T.      B(G#m)P.T.

E(C#m)P.T.      A(F#m)P.T.      D(Bm)P.T.      G(Em)P.T.

C(Am)P.T.      F(Dm)P.T.      Bb(Gm)P.T.      Eb(Cm)P.T.

Ab(Fm)P.T.      Db(Bbm)P.T.      F#(D#m)P.T.      B(G#m)P.T.

E(C#m)P.T.      A(F#m)P.T.      D(Bm)P.T.      G(Em)P.T.

## §2. テトラコードと - - の4度進行

まずは普通の練習。もう楽勝ですね。

1 3 4 5 1 2 3 5 1 2 3 5

D-7 G7 CΔ7 G-7 C7 FΔ7

C-7 F7 BbΔ7 F-7 Bb7 EbΔ7

bb-7 Eb7 AbΔ7 Eb-7 Ab7 DbΔ7

G#-7 C#7 F#Δ7 C#-7 F#7 BΔ7

F#-7 B7 EΔ7 B-7 E7 AΔ7

E-7 A7 DΔ7 A-7 D7 GΔ7

次に、5度から始まる練習。ちょっとムズイが慣れれば平気！

5 7 R 9 5 7 R 9 5 6 M7 9

D-7 G7 CΔ7 G-7 C7 FΔ7

C-7 F7 BbΔ7 F-7 Bb7 EbΔ7

bb-7 Eb7 AbΔ7 Eb-7 Ab7 DbΔ7

G#-7 C#7 F#Δ7 C#-7 F#7 BΔ7

F#-7 B7 EΔ7 B-7 E7 AΔ7

E-7 A7 DΔ7 A-7 D7 GΔ7

続いてはマイナー版。だんだんややこしくなってきました～

Musical notation for the first system, including a treble clef, key signature of one flat, and a sequence of notes with accidentals. Chords are written above the staff: B $\emptyset$ , E7(b9), A-, E $\emptyset$ , A7(b9), D-.

1 m3 4 b5 1 b9 3 5 1 m3 4 5 —

Chords below the staff: A $\emptyset$ , D7(b9), G-, D $\emptyset$ , G7(b9), C-, G $\emptyset$ , C7(b9), F-, C $\emptyset$ , F7(b9), B $\flat$ -, F $\emptyset$ , A $\sharp$ 7(b9), D $\sharp$ -, A $\sharp$  $\emptyset$ , D $\sharp$ 7(b9), G $\sharp$ -, D $\sharp$  $\emptyset$ , G $\sharp$ 7(b9), C $\sharp$ -, G $\sharp$  $\emptyset$ , C $\sharp$ 7(b9), F $\sharp$ -, C $\sharp$  $\emptyset$ , F $\sharp$ 7(b9), B-, F $\sharp$  $\emptyset$ , B7(b9), E-.

あれ？ペンタのニックの練習のはずが、いつの間にもやらペンタやのうなってるやん！そうなんです。応用してるんです。ちょっとずつ違った音も出てきますが、ここは「ペンタ風」ということでヒトカラゲにしました。

Musical notation for the second system, including a treble clef, key signature of one flat, and a sequence of notes with accidentals. Chords are written above the staff: B $\emptyset$ , E7(b9), A-, E $\emptyset$ , A7(b9), D-.

b5 6 7 b9 5 7 R b9 5 6 M7 9 —

Chords below the staff: A $\emptyset$ , D7(b9), G-, D $\emptyset$ , G7(b9), C-, G $\emptyset$ , C7(b9), F-, C $\emptyset$ , F7(b9), B $\flat$ -, F $\emptyset$ , A $\sharp$ 7(b9), D $\sharp$ -, A $\sharp$  $\emptyset$ , D $\sharp$ 7(b9), G $\sharp$ -, D $\sharp$  $\emptyset$ , G $\sharp$ 7(b9), C $\sharp$ -, G $\sharp$  $\emptyset$ , C $\sharp$ 7(b9), F $\sharp$ -, C $\sharp$  $\emptyset$ , F $\sharp$ 7(b9), B-, F $\sharp$  $\emptyset$ , B7(b9), E-.

最後は本当の勝負！ペントニックでテンションの領域に迫る。これはいわば、テトラコードの9度からのアプローチ、とも言える練習の一例です。テンション上げていかないとすぐにパニックになるわよ！

**D-7**   **G7**   **CΔ7**   **G-7**   **C7**   **FΔ7**

9 11 5 13   9 3 #11 13   5 6 M7 9 3 #11 13

**C-7**   **F7**   **BbΔ7**   **F-7**   **Bb7**   **EbΔ7**

**Bb-7**   **Eb7**   **AbΔ7**   **Eb-7**   **Ab7**   **DbΔ7**

**G#-7**   **C#7**   **F#Δ7**   **C#-7**   **F#7**   **BΔ7**

**F#-7**   **B7**   **EΔ7**   **B-7**   **E7**   **AΔ7**

**E-7**   **A7**   **DΔ7**   **A-7**   **D7**   **GΔ7**

**B∅**   **E7(b9)**   **A-**   **E∅**   **A7(b9)**   **D-**

b9 11 b5 b13   b9 3 #11 b13   5 6 M7 9 11 5 13

**A∅**   **D7(b9)**   **G-**   **D∅**   **G7(b9)**   **C-**

**G∅**   **C7(b9)**   **F-**   **C∅**   **F7(b9)**   **Bb-**

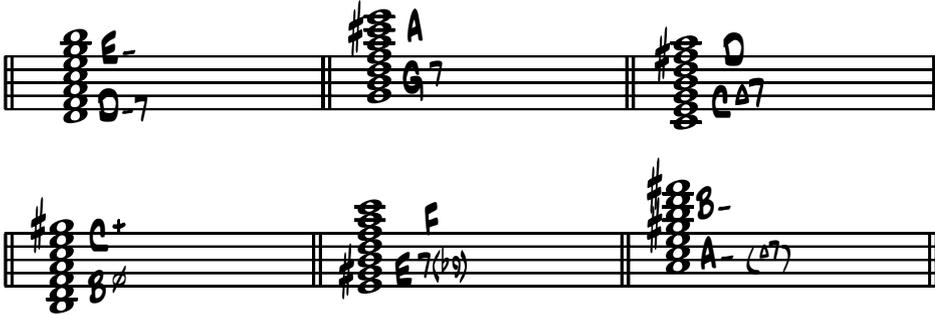
**F∅**   **A#7(b9)**   **D#-**   **A#∅**   **D#7(b9)**   **G#-**

**D#∅**   **G#7(b9)**   **C#-**   **G#∅**   **C#7(b9)**   **F#-**

**C#∅**   **F#7(b9)**   **B-**   **F#∅**   **B7(b9)**   **E-**

## 前ページの解説

五和音のところ、音を3度ずつ積み上げるとコードになる話をしました。前ページに出てきた和音を積み上げて検証してみましょう。以下に表したのはあくまで、積み上げの一例です。詳しくは次回 Dominant7 Work Outにて！



3度ずつ積み上げるから上のコードは2度上になるわけですね。下のコードをパッと見て、上のコードがスッと出てくる様になればあとはシメタモノデス。

この際だからハッキリ言いましょ。正直これらの練習は、難しい！難しいという事は、聞いている人たちにとっても難しい音楽に思えてしまう。だから、せっかく練習したからといって、連発しまくっていると、聞いている人々がどんどん遠ざかっていってしまう。そんな、実にやりがいのない練習。

なのですが！

時々さら～っと吹いてぬけると、実に新鮮な空気が入ったみたいに、「え？今のナニ??」と、異様に興味を引くこと請け合いですよ。最初に述べたとおり、音列そのものにもものすごい安定感とパワーがありますから！

結局のところ、色々練習して、出番では、その場の雰囲気合った言葉を発信しなければならない、という事ですね。あ～、まいったまいった。さらにまいった事に、このコーナーではまだ「裏ペンタ」について言及しておりません。I Got Rhythm Changes の実践練習の中でたっぷりやりますんで、お楽しみに！！

でもね。ナイショだけど、プロでもこの辺の練習、知らない人もたくさんいるんですよ。ただ、同じような事はすっごい苦勞して、肌で感じて、わかっている。今ここでこの練習に出会えた事を感謝しつつ、クサらずに頑張りましょう！

---

## おまけ      メロディーがシングル・ペントニックの名曲

古今東西様々な名曲があるけれど、はたしてピアノの黒鍵だけで弾ける曲が世の中にどれくらい存在するのだろう？ 今後この欄にどんどん掲載していきます。探してみると、サビ前かサビ中に1音だけペンタ以外の音が入っていたりする「おいしい」曲もたくさんありますが、シビアに省きます。また、見つけた人はどんどん教えてくださいね！

函館の女・ソーラン節・北酒場・チューリップ・ぞうさん・Amazing Grace・大空と台地の中で・昂・Sunny・石焼きいも・竹や竿竹・Cantaloupe Island・どんと節・矢切の渡し・アリラン・赤とんぼ・メリーさんの羊・出前一丁・星影のワルツ・オリエンタルカレー・男は辛いよ・笑点・一番綺麗な私を・夏祭り